

## 本物の学びに出会って —「鍛地頭-tanjito」で掴んだ合格と自己成長—

令和8年度採用（令和7年度実施）

さいたま市立学校教員採用選考試験

合 格

M先生・小学校養護教諭[公認心理師]

「今年で最後にしよう。」

そう決意して臨んだ今年の教員採用選考試験。長い間この選考試験に向き合い、自分なりに努力を重ねてきたからこそ、今回で駄目ならこの想いに一区切りをつけようと思っていました。

「鍛地頭-tanjito」との出会いは、今から3年前のことです。それまで私は、いくつかの採用選考試験対策の塾や通信講座を利用してきました。そうした中で、ネット検索から偶然見つけたのが、「鍛地頭-tanjito」のホームページでした。

塾長の「児童生徒を思う熱い言葉」に強く共感し、ブログを読み進めるうちに「この先生から学んでみたい」という思いが芽生えました。しかし、最初はなかなか勇気が出ませんでした。それでも気持ちは日を追うごとに強くなり、ついに思い切って「鍛地頭-tanjito」の門を叩いたのでした。

あれから3年。

先生と二人三脚で、ひたむきに学び続けてきました。途中、何度も心が折れそうになりました。しかし、先生が「絶対にできる」と信じ続けてくださったおかげで、私も最後まで踏ん張ることができたのだと思います。思い返せば、最初の頃は本当に未熟でした。それでも先生は決して見放すことなく、根気強くご指導くださいました。その一つ一つの積み重ねが、今の自分につながっているのだと思います。

今思うのは、正しい努力・正しい勉強の仕方を身につけたからこそ、合格につながったということです。そして何より、「「鍛地頭-tanjito」は本物だった」という確信です。それは、単なる選考試験対策ではなく、教員としての資質や人間力を磨き、児童生徒への教育愛を再認識させてくれる場だったからです。今、教育は大きな転換期を迎えていると言

われています。しかし、どれほど時代が変わっても、児童生徒に向き合う姿勢は変わらない——「鍛地頭-tanjito」の学びを通して私はそのことを強く実感しました。

次に私が受講した講座について簡単にお話します。

### ■ 小論文作成錬成講座

(添削を重ねながら、2週間で1本の論文を仕上げていき、その間、3回のリモート対面指導を受けることができます。提出した論文には、赤字の丁寧な添削と豊富な資料等が添えられています。それらを読み込み、テーマの本質を多方面からアプローチしていきます。そして先生との対話を通して、更に掘り下げていきます。テーマ以上の深い学びが得られ、それが面接対策にもつながっていきました。)

私の悩みは語彙力の不足にありました。しかし、何回も書いていくうちに、よく使う言葉やフレーズ（教育に関する概念）が身に付き、経験からの自己の強みが分かるようになりました。最初は、何時間、何日もかけて1本の論文を書いていたのです。ですが、10回目の講座を終える頃には、仕上げるまでの時間は短くなり、論述する感覚を掴めるようになりました。

---

### ■ 面接試験対策講座

(面接の問題に対して自分で解答を考え、それに対して先生から教育現場の実践に生きる添削やコメント、さらに参考資料のリンクが返ってきます。これを基に再提出を重ねること、実践に根付いた思考が深まっていく講座です。先生は答えを教えることはありません。自分で考えられるよう問いかけや示唆を通じて導いてくださいます。だからこそ、本当の力が身につく講座だと感じました。)

この講座で感じたことは、面接の質問には必ず意図があり、答えるべきキーワード（実践的なキー概念）があることです。私は、解答づくりに何度も悩みました。時には自分の考えと先生の示唆とが異なることもありました。そのような時には対話を重ね、自分の思いも大切にしながら、納得のいく解答を模索し続けました。

しかし、自分の言葉で、自分の思いとして面接官に伝えられるようになるまでには、かなりの時間が掛かりました。一朝一夕にできるものではありません。何度も考え直し、葛藤し試行錯誤を繰り返しながら、ようやく3年経って、知が統合され、言葉に魂が宿る感覚を得ることができたのです。そして、その「実感をもって語る力」こそが、今回、倍率12.0倍を突破した合格につながったのだと思います。

---

(次頁に続く)

## ■ 場面指導 Weekly 解説ルーム（基礎講座）

（教員としての基本的な知識を体系的に学ぶことができます。学力論、教育法規や教育心理、生徒指導や特別支援教育、学級（ホームルーム）・保健室経営や人権教育、情報教育に答申など、教員として働く上で欠かせない内容ばかりでした。）

この講座は、ただ、知識を教えてくれるのではなく、実際の現場での事例を交えながら学べるため、実践につながる学びでした。

（講座は、月に3回～4回、テーマに沿って他の塾生と対話をしながら先生のお話を伺う形式で進みます。）

複数の塾生と共に学ぶことで、自分にはない視点や気づきを得ることができました。また、質問を振られたときに、瞬時に考えをまとめて、人前で話す練習ができました。当初、私には強い苦手意識がありました。しかし、面接の練習だと思って取り組みました。塾生の皆さんと学ぶ刺激の中で、私は毎回の講座内容を丁寧にノートにまとめていきました。そのノートは私にとって大きな財産になっています。

---

## ■ 自己PR文作成錬成講座

（願書の志望動機や自己PR文を添削していただく講座です。）

先生との対話や添削を通して、自分の核となるものがはっきりとし、面接や小論文の大きな柱になります。志望動機や自己PRは何度も何度も練り直して、数か月間考え続けました。そして、先生からの質問に向き合うことで、自分の“核”がより明確になっていきました。

---

殆どの塾生は選考試験合格後も塾に残り、学び続ける優秀な先生方です。一方で、私は本当に未熟な遅いスタートでした。今でもまだまだ努力が必要です。しかし、もし、私のように、「付いていけるかな。」と思われていたとしたならば、全く心配されることなく、体験授業を受けてみてください。学びたいという気持ちさえあれば大丈夫です。

「鍛地頭-tanjito-」での学びは刺激的で楽しく、教員として欠かせない資質や能力を育んでくれます。選考試験対策にとどまらず、本物の学びを通して、自己成長していくことを実感できるでしょう。そして、学びこそが自分自身を豊かにしてくれる——そう確信されるに違いありません。